

横 浜 市 教 育 委 員 会
臨時会会議録

- 1 日 時 令和7年5月22日（木）午前10時00分
- 2 場 所 市庁舎 18階共用会議室（みなと6・7）
- 3 出 席 者 下田教育長 植木委員 森委員 緒方委員
- 4 欠 席 者 泉委員 綿引委員
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

令和7年5月22日（木）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告
横浜市教育委員会公式note「ヨコエデュ」について
- 3 請願等審査
受理番号1 教科書採択に関する要望書
- 4 審議案件
教委第5号議案 横浜市立小学校、横浜市立中学校及び横浜市立義務教育学校の通学
区域並びに就学すべき学校の指定に関する規則の一部改正について
教委第6号議案 横浜市いじめ問題専門委員会委員の任命について
教委第7号議案 横浜市いじめ問題専門委員会臨時委員の任命について
- 5 その他

[開会時刻：午前10時00分]

下田教育長

ただいまから、教育委員会臨時会を開会いたします。
本日は、泉委員、綿引委員より欠席の連絡を頂いております。
初めに、会議録の承認を行います。4月11日の会議録の署名者は植木委員と緒方委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。
なお、5月9日の教育委員会定例会の会議録については、準備中のため、次回以降に承認することといたします。
次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

石川教育次長

【一般報告】

1 市会関係

- 5/15 本会議（第1日）役員改選
- 5/20 こども青少年・教育委員会（教育委員会関係）

教育次長の石川です。それでは、報告いたします。
まず、市会関係ですが、5月15日に本会議第1日目が開催され、役員改選が行われました。
5月20日に市会常任委員会である、こども青少年・教育委員会が開催され、教育長が令和7年度の事業概要を説明し、質疑が行われました。また、常任委員のメンバーが変わり初めての委員会ということで、教育委員からは、植木委員、緒方委員が出席いたしました。

2 市教委関係

（1）主な会議等

- 5/16 横浜教育データサイエンス・ラボ

（2）報告事項

- 横浜市教育委員会公式note「ヨコエデュ」について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、5月16日に、「横浜教育データサイエンス・ラボ」が、横浜国際協力センター6階で開催され、下田教育長が出席し、挨拶いたしました。
次に、報告事項として、この後、所管課から「横浜市教育委員会公式note『ヨコエデュ』について」、報告いたします。
私からの報告は以上です。

下田教育長

報告が終了いたしました。御質問等ございますか。よろしいですか。

	それでは、御意見がなければ、次に「横浜市教育委員会公式note『ヨコエデュ』について」、所管課から御報告いたします。
林教育プロモーション担当部長	教育プロモーション担当部長の林と申します。本日は、令和7年2月に横浜の教育の魅力を発信するプラットフォームということで、「note」というソーシャルメディアプラットフォームを使いまして発信を始めましたので、教育プロモーション担当課長から御報告いたします。
吉池教育政策推進課教育プロモーション担当課長	教育プロモーション担当課長の吉池でございます。よろしくお願いいたします。資料について御説明させていただきます。 「学ぶなら横浜、教えるなら横浜」と感じる横浜の教育の魅力をnoteで発信しております。教育現場では、子どもたちが様々なチャレンジをしたり、教員は新たな学びの方法を模索したりなど、横浜ならではの教育、魅力的な取組があまり知られていないという課題がございました。そこで、多くの方に横浜の教育の魅力を知っていただきたいと考えまして、「ヨコハマのエデュケーション」を略した「ヨコエデュ」というタイトルのnoteを開設いたしました。 裏面を御覧ください。noteでは、横浜ならではの教育をテーマごとに発信しております。「BLUE VOICE」というテーマでは、国際都市横浜ならではのグローバル教育を御紹介しております。「話そう、未来のこと」というテーマでは、横浜の教育の未来をつくる取組や教育現場のチャレンジを御紹介しております。「ひかるひと」というテーマでは、教員や児童生徒、地域の方など「ひと」に焦点を当て、教育現場を支える「光」を発信しております。「先生開化」というテーマでは、教員を目指す方をターゲットに、「教えるなら横浜」を実感できる、横浜の教育・教員の魅力をお伝えしております。 次のページを御覧ください。「ヨコエデュ」を開設しましてから3か月経過した現状の報告をさせていただきます。 まず1点目、「1 反響の大きかった記事」でございます。「横浜市教育委員会公式note『ヨコエデュ』ははじめます」という、noteを始めた理由や、今後発信していきたいことをつづりました初投稿の記事になります。PV数が38,000、共感していただいた方につけていただくスキ数が580ということで、教育委員会事務局がnoteで発信していくことについて、多くの方に御関心や御期待を寄せていただいたのかなと考えております。もう1点、「若葉台で広がる新しい学びのカタチ～特別支援学校と小学校の合同授業に密着！」という記事に関しましては、若葉台特別支援学校と若葉台小学校の合同授業を取材したものでございまして、学校やクラスの垣根を越えて、子どもたちが交流し一緒に学ぶ、インクルーシブな場をレポートしております。こちらはスマートニュースに転載されまして、多くの方に記事を読んでいただくことができました。このほかにも、noteの記事に取り上げたもののの中に、YouTubeの動画をPRしているものがありますが、こういったものは、8万再生されたものも掲載しております。 2点目です。「2 全市立学校公式noteのアカウント開設」でございます。各学校における情報発信のツールといたしまして、全ての市立学校にnoteのアカウントを開設いたしました。各学校が、独自の取組や、学校の様子を発信していく場として活用を進めているところでございます。現在、発信校は少数ですが、順次増やしていきたいと考えております。 3点目、「3 教員志望者に向けたプロモーション」でございます。教員を目指している大学生に、教育実習や学校ボランティア等の活動を通じて感じた横浜の教育や教員の魅力を、学生の視点で発信していただいております。「教えるな

	ら横浜」と感じていただける教職の魅力発信に取り組んでいるところでございます。御覧の画像の右側、「私が教員になるまでの道のり」という記事に関しましては、横浜国立大学の学生に記事を作成していただきましたが、教育実習や障害のある生徒の授業サポートにボランティアとして入った経験を経て教員になりたいと思ったエピソードを具体的に記事にまとめていただいております、こちらも多くの方に読んでいただいたという状況でございます。今後も学生から見た横浜の教育の魅力を発信してまいりたいと考えております。説明は以上でございます。
下田教育長	説明が終了いたしました。御質問があればお願いします。
緒方委員	御説明ありがとうございました。私もYouTubeのコンテンツを見せていただきましたが、思わず見入ってしまいました。優れた良い作品だなと思って見たのですが、noteをどう広めるか、たくさんの人にどれだけ見ていただけるかということの広める手だてをしっかりと取り組んでいかないと、内側だけで終わってしまうのはもったいないと感じました。一つ思ったのは、子どもたちがこのコンテンツを作ることは問題ないのでしょうか。
林教育プロモーション担当部長	ありがとうございます。子どもたちがコンテンツを作って取り組んでいる例がたくさんあります。他県でも魅力的な発信をしまして、例えば高等学校の生徒会が「自分たちの意見で制服が変わった」など、そういったいろいろな事例があって、オリジナリティーのある、魅力ある発信をされています。ただ、生徒が勝手に発信しているというよりは、しっかりと学校がチェックしながら発信しているという状況でございます。
緒方委員	ありがとうございます。子どもたちは中学生ぐらいになると、私たち大人を超えた豊かな発想で素晴らしいものを作っていくというのを私も今まで見てきているので、ぜひ子どもたちがコンテンツを作って発信できるようにして下さい。私の世代よりもずっと子どもたちのネットワークはすごいと思うので、広がっていくと思います。ぜひ良いものを作って広く見られるように、また手だてをよろしくをお願いします。
林教育プロモーション担当部長	ありがとうございます。
下田教育長	ほかにごございますか。
植木委員	御説明ありがとうございました。せっかく良いことをみんなの学校でそれぞれ発信できるということになると、これから発信してくれる学校がどう増えていくのかや、この学校が発信を始めましたということ自体を、例えば、地域の皆さんにどうお伝えしていくのか、その辺りはどうお考えでいらっしゃるでしょうか。
林教育プロモーション担当部長	ありがとうございます。今、学校でも全く発信していないということではなくて、ウェブサイトなどを通じていろいろな発信をされています。ただ、ウェブサイトだと関係者しか見に来ないということで、なかなか魅力発信はできていないという中で、noteを使えばもっと発信できるよと気付いてくれた学校が今、先頭

を切って取り組んでいただいているような形です。教育委員会事務局も支援しながら、成功事例をまず作り出して、noteの発信の仕方というのを、見本としていただいているような形で、どんどん発信していただく学校を増やしていこうと思っています。今おっしゃっていただいた、地域の方々にどう知らせていくかというのは、またなかなか難しい課題ではあるのですが、例えば若葉台特別支援学校と若葉台小学校のインクルーシブの記事については、若葉台の方々は、地域が取り上げられたことに喜んでいただいて、それは校長が宣伝してくれたというのがあります。地域の方も「スキ」を、記事を見て「いいね」ということでしてくれているということで、これは一つの良い事例だと思うのですが、学校は地域との連携もたくさん行っていますので、そういった事例を地域に知っていただくような形を作っていければ、もう少し地域の方にも読んでもらえるかなと思っています。

植木委員

ありがとうございます。学校ですてきな取組をしているよということだけでなく、横浜市で教員になってみようという人も対象にこのnoteは作られているということですが、その辺りは、実際に大学生や、これから大学を受験する高校生には、どのような形でこういうのがありますよというのをお伝えしていくのか、その辺りのお考えというのは何かおありですか。

林教育プロモーション担当部長

ここで紹介した大学生に書いていただいた記事については、保護者向けに発信しているものではないのですが、先ほど緒方委員がおっしゃったように、学生のネットワーク力というのが結構大きくて、ほかの記事とは違う広がりというのが出てきています。連携大学などそういったところにも、いろいろこの「ヨコエデュ」についても広報していきまして、そういったところから広がっていきます。あと、noteという媒体自体が、ハッシュタグを頼りにいろいろな記事に関心のある方が、学生が書けば学生が来るというような特性がありますので、そういったところをどんどん広げていこうと考えています。

下田教育長

ほかにございますか。

森委員

御報告ありがとうございます。私もいくつかの記事を読ませていただいて、これまでの発信と大きく違うと感じました。

一つ目は、すごく等身大だということです。教員が自分の言葉で、私は今こんなことを思っているというような言葉がたくさんあり、子どもたちの声もあり、関わっているいろいろな方の声があって、どうしても発信となると、例えばですが、校長の発信や、教育委員、学校教育事務所からの発信などというところでフォーマルなものがこれまで多かったと思いますが、その等身大の姿が見える発信がこのnoteなのだなというのが一つ思ったことです。

二つ目は、写真が多いということです。教育委員会事務局のいろいろな広報物はどうしても文字が多過ぎます。あと、PDFが多いとスクロールなどできないので、拡大しながら見るような感じが多いですが、noteで見た記事は写真も多くてスクロールして読みやすいので、スマートフォンで情報を得ている方も多い中で、それはすごく読みやすいですし、情報として得やすいと思います。文字を読まなくなっている方も多い中で、気になる写真に目を止めてその周りの文章を読むというような方も保護者の中には多いと思うので、その読みやすさはあると思いました。

三つ目は、周辺情報や裏側ということに焦点が当たっていることが特徴だと思

いまして、それはとても貴重だと思いました。というのも、これまでは、大分前はですが、保護者が学校に来て関わる時間や、教職員とコミュニケーションを取る時間などが多かった時代はあったと思うのですが、共働き世帯も増えていきますし、様々な変化もあって、教職員と話す時間がすごく短い。要点だけや、三者面談だけなどということもあったり、PTAが活発なところもありますが、そうでないところも増えている中で、教員がどんな思いでいるのかなど、便りには載っていない、何かをしましたではなくて、するまでの道のりの裏側というようなことを、何気ない会話の中で聞くという機会が減っていますが、でも、それこそが大事で、そこから教員と共通話題を見いだして話すなど、コミュニケーションが広がっていくと思うので、そういうちょっとした話をスタートするような、若しくは気かけ合うなど、いろいろな話を膨らませるような話題があるというのは、コミュニケーションを円滑にするツールになると思いますので、それは一つ良いなと思いました。

四つ目は、日常ということが一つ大きなテーマで、とても良いなと思いました。どうしても保護者や社会一般、教育委員会事務局の外にいと、情報はどうしても報道を通して知ることが多いです。でも、ニュースになるところはやはりニュースですので、何か新しいこと、変化や事件など、いろいろなことで知ることというのはマスメディアを通してありますが、日常のことは意外に報道されにくいものだと思います。若しくは埋もれやすいと思いますが、noteを拝見しますと、毎日のことにフォーカスしていますので、日常を知る機会は今までなかったなと思うので、便りなどは別ですが、一般的に目に触れやすいところにあるというのはなかったと思うので、これまでとすごく違う発信だなと思ったことと、とても良いと思ったので、ぜひ引き続きそういうところを大事にさせていただけたらなと思ったところでした。

あと、これからも期待したいと思うところとしては、「応援団」ということと、「協働」と、「工夫の共有」というこの3点です。学びを支えるというところにおいては、学校だけではなくて地域みんなで学びを支えていこうという発信を今までしてきたと思いますが、応援団を増やしていくというような意識で、更に発信していただけると良いなと思っています。そのためには、「何をした」や「何をする」という事実ではなくて、どういう考えを持って取り組もうと思っているかなど、途中経過、今はまだできていないですが、こんなことを道半ばで取り組んでいて、少しここが難しくて、ここがうまくいって、というところを見せていくというのが、応援団が増えていく一つのコツと言いますかポイントなんじゃないかなと思っています。実際、うまくいっていることばかりではないので、そこも含めて発信するということですね。例えば、地域で「こういうことを知ってる人いますか」など、そういう投げかけがあっても良いと思います。そうすることによって、「その情報知ってるよ」、「ここにあるよ」など、地域の財がいっぱいあると思いますので、そういったことを発信することによって、できることも集まってくるというような、そういう関係になるような発信媒体になったら良いなと思いました。

それが結果的に二つ目のところにつながりますが、個別最適な学びと協働というところをずっと言ってきたにもかかわらず、少し弱かったと思うので、協働しやすいことにつながったらと思います。

三つ目の工夫の共有というところについては、きっとnoteを教職員も見ているのではないかとと思っています。教職員の目に止まりやすいところにも置いているのでしょうか、そこもお聞きしたいですが、置いていただいて、他校の取組をお互い知る良いきっかけにもなると思いますので、もちろん研修なども行っている

	と思いますが、そういうことにも更につながったと思います。 これからどんな方々の話が読めるのかなと私も楽しみにしています。あまり表舞台に出てこないですが、すごく大切な働きをしてくださっている方々がたくさん学校にはいると思っていて、そういった皆さんの思いや思っていることなど、そんなことも見られたらうれしいと思っていますので、これからも期待しています。よろしくお願いします。
林教育プロモーション担当部長	ありがとうございます。おっしゃるとおり、等身大、日常というところで、特別な人じゃなくてもいろいろな感動にあふれた現場であるということや、いろいろな努力を賞賛することによってモチベーションを上げていきたいですし、森委員だけでなく植木委員にもおっしゃっていただいたように、地域との協働というのも重要ですので、それも特別なことではないかもしれませんが、重要なことですので取り上げていって、地域の方にも読んでいただけるようなものを目指していきたいと思いますので、応援よろしくお願いします。
下田教育長	ほかに御意見がなければ、次に議事日程に従い、請願等審査に移ります。4月10日付で受け付け、各委員に配付しております受理番号1について、審査を行います。事務局から御説明いたします。
丹羽学校教育部長	学校教育部長の丹羽です。受理番号1の要望書につきまして、考え方を学校経営支援課長より御説明申し上げます。
熊切学校経営支援課長	学校経営支援課長の熊切です。受理番号1の要望書について、御説明いたします。要望書は、知る権利・横浜の会です。要望項目は一つでございます。 1, 「横浜市教科書採択の基本方針」の文面から「採択終了後に」の文言を削除し、運用の実情を踏まえた正確な表現となるよう修正してください。 続いて、考え方について説明いたします。教科書の採択が公正かつ適正に行われるためには、様々な働きかけにより円滑な採択事務に支障をきたすことのないよう、静ひつな採択環境を確保する必要があります。なお、より開かれた採択となるよう、基本方針をあらかじめ公表するとともに、採択終了後には採択に関する情報を積極的に公開するなどしています。説明は以上です。
下田教育長	説明が終了いたしました。御質問等はございますか。 それでは、御意見がなければ、受理番号1については、事務局の考え方に沿った回答でよろしいでしょうか。
各委員	<了 承>
下田教育長	それでは、承認させていただきます。回答文につきましては、承認いただいた考え方に沿って回答させていただきます。 次に、議事日程に従い、審議案件に移ります。まず、会議の非公開についてお諮りいたします。教委第6号議案「横浜市いじめ問題専門委員会委員の任命について」、教委第7号議案「横浜市いじめ問題専門委員会臨時委員の任命について」は、人事案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。
各委員	<了 承>

下田教育長	それでは、教委第6号議案及び教委第7号議案は、非公開といたします。 次に、教委第5号議案「横浜市立小学校、横浜市立中学校及び横浜市立義務教育学校の通学区域並びに就学すべき学校の指定に関する規則の一部改正について」、所管課から御説明いたします。
肥田教育環境整備部長	教育環境整備部長の肥田でございます。教委第5号議案について御説明いたします。「横浜市立小学校、横浜市立中学校及び横浜市立義務教育学校の通学区域並びに就学すべき学校の指定に関する規則の一部改正について」御説明申し上げます。裏面を御覧ください。「提案理由」でございます。来年、令和8年4月1日に、港南区の横浜市立日限山小学校と戸塚区の横浜市立南舞岡小学校が統合いたしまして、横浜市立ひざり舞岡小学校として開校することに伴いまして、通学区域を設定するために規則の一部を改正するという事で提案するものでございます。では、詳細を学校計画課担当課長より説明させていただきます。
高群学校計画課担当課長	学校計画課担当課長の高群と申します。よろしくお願いいたします。まず、御説明の前に、これまで日限山小学校と南舞岡小学校の学校統合に関しては、2年以上の歳月をかけて検討してまいりまして、教育委員会会議にも複数回、御相談させていただいている、そういう状況にございますので、これまでの経緯を簡単に御説明させていただきます。 まず、今回の学校規模適正化に関して検討に着手したのは令和4年1月になります。横浜市教育委員会から横浜市学校規模適正化等検討委員会、附属機関になりますが、こちらに学校規模適正化に向けて検討するようということで諮問されました。それに基づきまして検討委員会で検討した結果、地域の代表の方あるいは保護者の方、そういう方が中心となりました学校規模適正化等検討部会を地域に設置して検討することとなりました。検討部会は令和4年9月から令和6年8月まで全9回でいろいろな検討を行ってまいりまして、検討部会からその内容を意見書として取りまとめまして、学校規模適正化等検討委員会に意見を具申しております。委員会ではその内容に基づきまして審議を行って、答申書として取りまとめ、それを教育委員会に答申しました。その内容に基づきまして、令和6年10月に教育委員会会議で議論が行われております。 その内容につきましては説明資料を御覧ください。説明資料になりますが、1枚おめくりいただきまして、「別紙1」がついているかと思います。この説明資料についてですが、ひざり舞岡小学校を統合校としまして、両校の学校を合わせた学区を新しい学校の学区とするということで、そのときに使いました検討委員会からの答申書を、参考として3ページ以降につけてございます。答申の内容としましては、学校統合の時期を令和8年4月にするということ、統合校の学校名につきましては「ひざり舞岡小学校」とすること、それから統合校の通学区域などをまとめてございます。そうした内容が答申されて、令和6年10月に教育委員会会議で審議いたしまして、承認していただいている状況にございます。その後、令和7年2月の横浜市会で学校条例の改正を議案として提案いたしまして、その中で学校名と統合の年月日については学校条例で定めておりますので、その内容につきまして御審議いただきました。そこで承認されましたので、学校名と統合時期については、今、手続上、決定している、そのような状況になってございます。 本日提案させていただきました議案についてですが、規則の中で通学区域、住所地を定めておりますので、その部分について定めるための提案をさせていただいております。

議案にお戻りいただきまして、議案書の5ページのところに新旧対照表をつけさせていただいておりますので、こちらで内容については御説明させていただきます。規則では、日限山小学校の区域として、港南区の上永谷町4,345番地からということで、今の日限山小学校の通学区域の住所地が定めてございます。6ページから7ページにかけては、今の南舞岡小学校の通学区域の住所地が定めてございます。これが統合校となりまして、使用校舎がひざり舞岡小学校ということで港南区になります。右側の改正通学区域としまして、ひざり舞岡小学校の通学区域、港南区の元の日限山小学校の通学区域、及び戸塚区にあります南舞岡小学校の元の通学区域を合わせたものを記載しております。

手続としましては、こういう形で記載を変更することで、今回、通学区域を設定するものとなっております。御説明については以上となります。

下田教育長

説明が終了いたしました。御質問があればお願いいたします。

森委員

最後の説明資料の5ページに「2 その他、統合にあたっての要望」というところでいくつかこれまでも要望があったと思いますが、その進捗やこういうことの経過はこんな感じで進んでいますということが何かあれば教えていただけますか。

高群学校計画
課担当課長

統合にあたっては、学校規模適正化等検討部会の意見書にありますように、いろいろな御意見を頂いております。例えば今、南舞岡小学校については地域防災拠点に指定されておりますが、閉校後、どういう形で地域防災拠点を使用していくのか、ということにつきましては、実際の所管となっている戸塚区総務課の防災担当、あとは関係する地域の連合町内会長、それから自治会長が入って、学校計画課も参加させていただいて、どうするかという議論を行っているところです。

また、統合にあたっては、今年度が両校の交流期間となっておりますので、交流期間についての取組については、今年度新しい体制になって、両校の学校を中心にならぬ案を取りまとめているところです。これから具体的な統合に向かっている、例えば両校で一緒に行うイベントなどが出てくると思いますので、そういうことに対しては教育委員会事務局としても支援してまいりますし、地域の方、保護者の方などに周知するために、学校計画課からいろいろな周知の方法を取ってお知らせしていきたい、そのように考えております。

森委員

ありがとうございます。1年半、長いようで短いと思います。ぜひ引き続き安心して通えるように支援をお願いいたします。

下田教育長

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、ほかには御意見等がなければ、教委第5号議案につきましては、原案のとおり承認させていただいてよろしいですか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、原案のとおり承認させていただきます。

以上で公開案件の審議が終了いたしました。事務局から報告をお願いいたします。

古瀬総務課長	次回の教育委員会定例会は、6月20日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、次々回の教育委員会定例会は、7月18日金曜日の午前10時から開催する予定です。
下田教育長	それでは、皆さん、よろしいでしょうか。次回の教育委員会定例会は、6月20日金曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知いたしますので御確認ください。 次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴・報道機関の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。 ＜傍聴人及び関係者以外退出＞
下田教育長	教委第6号議案「横浜市いじめ問題専門委員会委員の任命について」 (原案のとおり承認) 教委第7号議案「横浜市いじめ問題専門委員会臨時委員の任命について」 (原案のとおり承認)
下田教育長	本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会臨時会を閉会といたします。 [閉会時刻：午前10時50分]